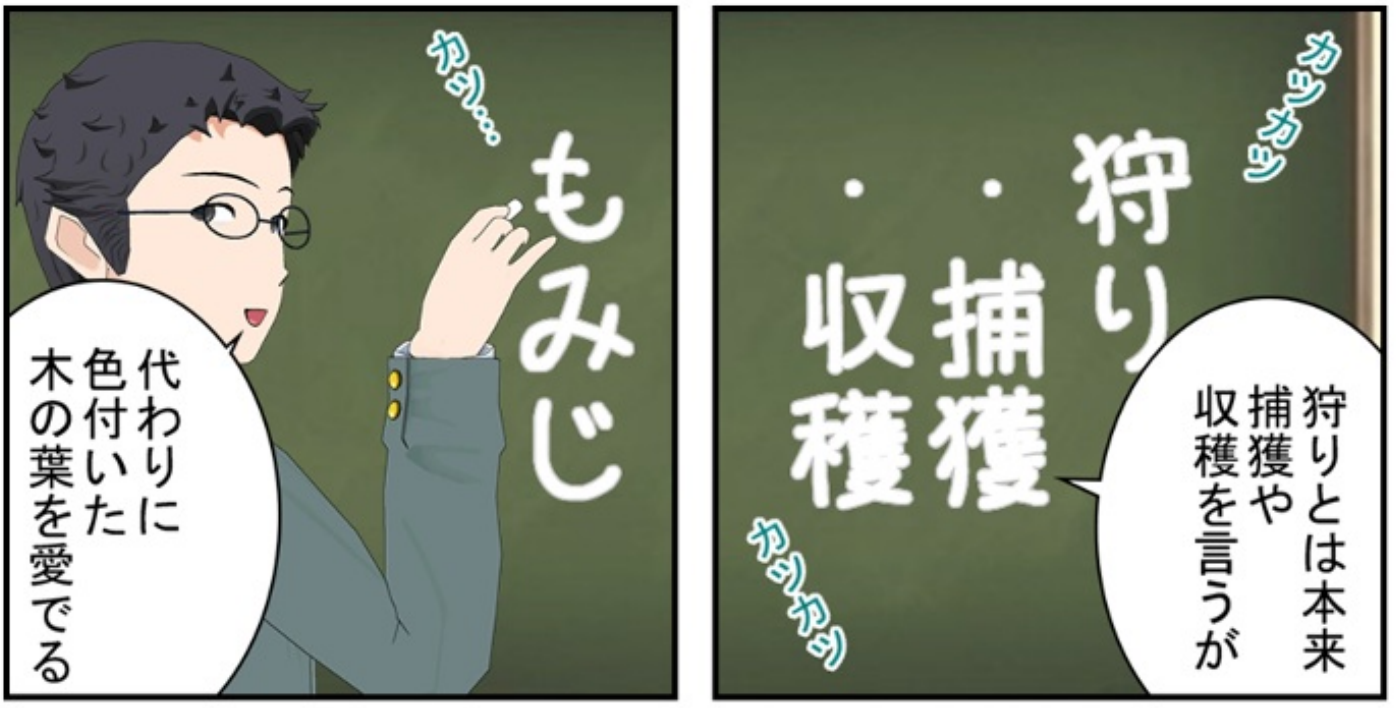
カルパス
『オータムリーフ』
脚本：アストン＝路端
画像：コミＰｏ！
www.comipo.com



www.comipo.com

カルパス
『オータムリーフ』
脚本：アストン＝路端
画像：コミＰｏ！
www.comipo.com

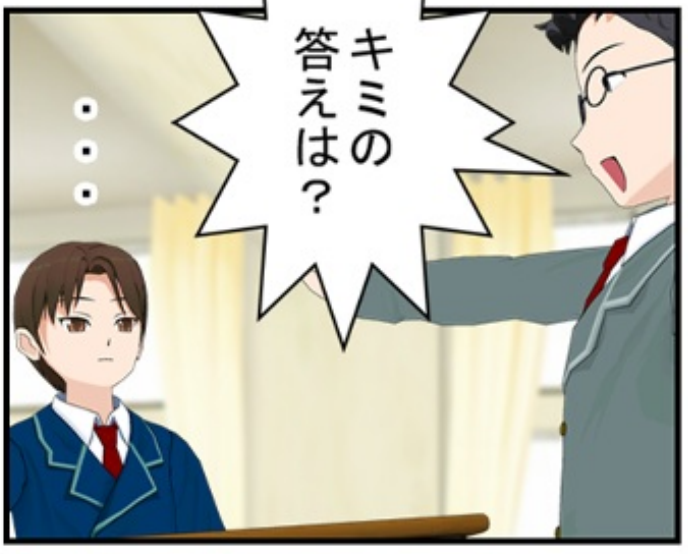
www.comipo.com

強引な勧誘から一週間が過ぎた

活動の内容も目的も分からないまま

気が付けば授業は終わり

部活動の時間がやって来ていた



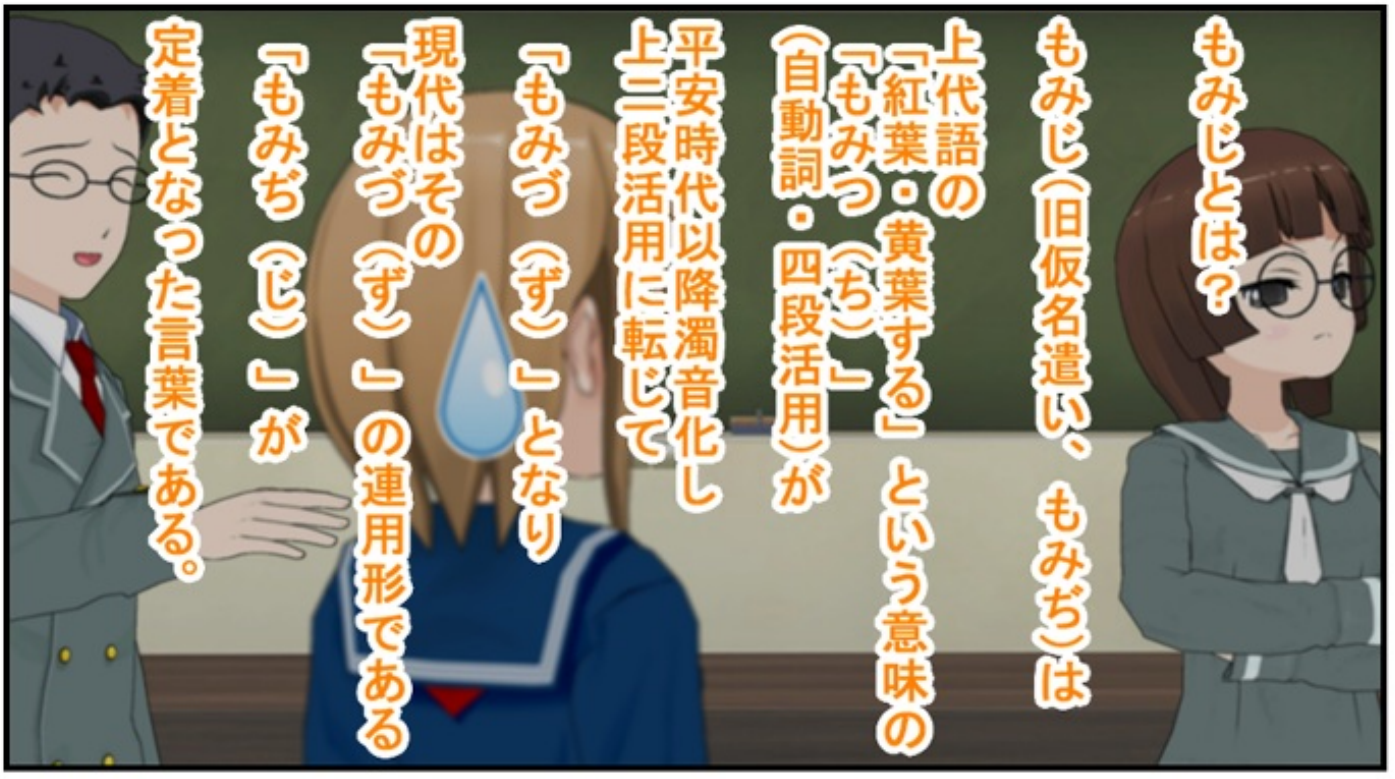
www.comipo.com

www.comipo.com

www.comipo.com

もみじ(紅葉、楸、黄葉)
：カエデ科カエデ属の木を呼ぶ場合もあるが
様々な樹木の紅葉を総称している場合もある

www.comipo.com



紅葉とは
葉の生成する色素「アントシアニン」や
葉に含まれる「カロテノイド」による
色の発現だが

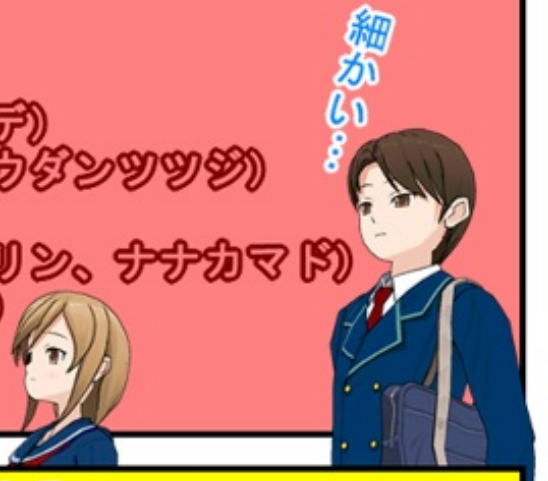
紅葉
黄葉
褐葉

本来は紅葉するものが
アントシアニンの
生成が少ないために褐葉になるなど
成長の状態によって変わることもある

www.comipo.com

紅葉：葉の赤色は色素「アントシアン」に由来する。
アントシアンは春から夏にかけての葉には存在せずに、
秋に葉に蓄積したブドウ糖や蔗糖と紫外線の影響で発生する。

カエデ科（イロハモミジ、ハウチワカエデ
サトウカエデ、メグスリノキ）
ニシキギ科（ニシキギ、ツリバナ）
ウルシ科（ツタウルシ、ヤマウルシ、ヌルデ）
ツツジ科（ヤマツツジ、レンゲツツジ、ドウダンツツジ）
ブドウ科（ツタ、ヤマブドウ）
バラ科（ヤマザクラ、ウワミズザクラ、カリン、ナナカマド）
スイカズラ科（ミヤマガマズミ、カンボク）
ウコギ科（タラノキ）
ミズキ科（ミズキ）



黄葉：葉の黄色は色素「カロテノイド」による。
カロテノイド色素系のキサントフィル類は若葉の頃から葉に含まれるが、春から夏にかけては葉緑素の影響により視認はできない。秋に葉の葉緑素が分解することにより、目につくようになる。なお、キサントフィルも光合成によってできた糖から出発し、多くの化学変化を経てできたものである。

イチョウ科（イチョウ）
カバノキ科（シラカンバ）
ヤナギ科（ヤナギ、ポプラ、ドロノキ）
ニレ科（ハルニレ）
カエデ科（イタヤカエデ）
ニシキギ科（ツルウメモドキ）
ユキノシタ科（ノリウツギ、ゴトウヅル）

褐葉：黄葉と同じ原理であるが、タンニン性の物質
（主にカテコール系タンニン、クロロゲン酸）やそれが複雑に酸化重合したフロバフェンと総称される褐色物質の蓄積が目立つためとされる。黄葉や褐葉の色素成分は、量の多少はあるが、いずれも紅葉する葉にも含まれており、
本来は紅葉するものが、アントシアンの生成が少ないなどすると褐葉になることがある。

ブナ科（ブナ、ミズナラ、カシワ）
スギ科（スギ、メタセコイヤ）
ニレ科（ケヤキ）
トチノキ科（トチノキ）
ズズカケノキ科（スズカケノキ）

www.comipo.com

日本では紅葉の季節になると
紅葉を見物する行楽
紅葉狩りに出かける人が多い。

紅葉の名所と言われる箇所
(全国的には奥入瀬(青森県)や
日光(栃木県)京都の社寺などが有名)は
行楽客であふれる。

紅葉をめでる習慣は
平安の頃の風流から始まったとされ
特に京都市内では
多くの落葉樹が植樹されている。

また「草紅葉」の名所としては
四万十川や尾瀬、秋吉台等がある。

なお、この場合の
「狩り」というのは
「草花を眺めること」

平安時代には
実際に紅葉した
木の枝を手折り(狩り)

手のひらにのせて
鑑賞するという
鑑賞方法があった。

www.comipo.com

www.comipo.com

未だぎこちない
始まったばかりの暮らしの中でも
風景はこれまでと同じように
装いを変えていた
先のことが
何一つ分からなくても
季節は当たり前のように
確実に進んでいく

『オータムリーフ』完

www.comipo.com

カルけん！！（１４）

http://p.booklog.jp/book/90869

著者：アストン＝路端
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/robounoishi2009/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/90869

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/90869

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ